

盲導犬のルーツを探る ⑤

系統だった盲導犬訓練の始まり②

1929年 シーイング・アイ設立（アメリカ）

スイスのベベイでシェパードの作業犬としての可能性を追求し、その繁殖と訓練に取り組んでいたアメリカ人女性ドロシー・ハリソン・ユースティス氏は、1925年とその翌年にドイツの盲導犬訓練施設を視察し、盲導犬に対する評判が真実だと確信した。その後、サタデー・イブニング・ポスト紙に「シーイング・アイ」と題して、盲導犬の働きやドイツ国内における盲導犬事業の進展ぶりを紹介。その反響は大きく、盲導犬を希望する切実な問合せは、彼女の予想を遥かに越えるものであった。そして1929年に盲導犬訓練学校「シーイング・アイ」を設立した。80余年の歴史において幾多の試練を克服し、開設以来 10,000 頭以上の盲導犬を育成するなど、大きな業績を挙げている。ユースティス氏は、さらにイギリスの盲導犬事業に影響を与えている。

1931年 イギリスに盲導犬協会設立

アメリカのサタデー・イブニング・ポスト紙に掲載されたユースティス氏の盲導犬事業に関する紹介記事はイギリスにも伝えられ大きな関心呼んだ。イギリスで盲導犬事業を始めたいと情熱を燃やすマリエル・クルーク氏とロザマンド・ボンド氏は、ユースティス氏と会談し、国内に盲導犬訓練施設をつくる準備をすすめた。この組織は、現在のドッグス・フォー・ザ・ブラインド・アソシエーション(GDBA)の前身で、現在、GDBAは4000ユニット以上の盲導犬を育成している。単一組織では世界最大規模を誇っている。